

IF YOU'RE INTERESTED...

公開講座

津田梅子記念交流館プログラム

※お申込は、津田梅子記念交流館事務室(☎042-342-5146)まで

写真展

「キャンパスの秋・冬～花とモミジと雪景色」

日 程：2006年11月27日(月)～12月8日(金)
観覧無料、申込不要

「ジャズ・チャンツの著者から学ぶ英語指導法」

日 時：2006年12月9日(土) 10:00～16:00
参 加 費：4,000円

「メディアと高等教育—伝統と革新の軌跡—」

日 時：2006年12月8日(金) 14:40～16:10
講 師：天満 美智子氏(元本学学長)
参 加 費：1,000円

「はらだだけひで原画展&ギャラリー・トーク」

絵本を通して平和を祈る

展 示：2006年12月11日(月)～12月15日(金)
ト ー ク：2006年12月13日(水) 16:30～18:00
観覧無料、申込不要

「ゾルゲ事件 ヴケリッチの妻」 —愛は国境を越えて—山崎淑子—

日 時：2006年12月20日(水) 10:30～12:00
講 師：片島 紀男氏(元NHKチーフディレクター)
参 加 費：1,000円

TOEFL® 講座I-2【津田塾生優先】

日 程：2007年3月22日(木)～28日(水)
参 加 費：津田塾生20,000円

「総合2006」—いのち—

※お問い合わせは、津田塾大学教務課(☎042-342-5130)まで

講 師：各回、各界でご活躍の方々に講演をいただきます。
2006年12月 7日 湯澤 晶子 氏(㈱日本設計社員)
2006年12月14日 石川 善光 氏(インブルーヴインテグレーションクリニック院長)
2006年12月21日 なかだ えり 氏(イラストレーター)
2007年 1月11日 (未 定)
日 時：毎週木曜日13:00～14:30
聴 講 料：無料(申込不要)

EUIJ国際コンファレンス

【同時通訳付】

※お申込は、津田梅子記念交流館事務室(☎042-342-5146)まで

日 時：2007年1月13日(土) 10:00～17:00
参 加 費：無料(申込要)

礼拝

場 所：津田梅子記念交流館 岡島記念チャペル

※お問い合わせは、津田塾大学総務課(☎042-342-5111)まで

木曜礼拝 12:25～12:55

2006年12月7日(木) 奨励：江尻 美穂子(本学名誉教授)
2007年1月11日(木) 奨励：小館 亮之(本学助教)

クリスマス礼拝

声楽家のコロネリかさんに平和を願って「被爆のマリアに捧げる賛歌」を歌っていただきます。
2006年12月13日(水) 14:40～16:10
奨励：伊勢田 奈緒氏(日本基督教団目黒原町教会牧師・本学卒業生)

クリスマス・ツリー点灯

ハーツホン・ホール前のヒマラヤ杉に今年もクリスマスのイルミネーションが彩られています。
<今年のツリー点灯は12月25日まで、毎日16:00～22:00まで>

2007年度一般入試日程のお知らせ

	A方式		B方式		C方式	
	日程	募集人員	日程	募集人員	日程	募集人員
英文学科	2/6	130	3/ 1	30	実 個 施 別 し 試 ま 験 せ 験 ん	30
国際関係学科	2/5	185	2/28	25		30
数学科	2/7	25	2/28	5		5
情報科学科	2/7	25	3/ 1	5		10

A方式:大学独自の記述式試験

B方式:センター試験+個別学力試験

C方式:センター試験のみで選考

2007年度入試の変更点

B方式は東京のほか、札幌、仙台、名古屋、大阪、福岡でも実施します(情報科学科は東京のみ)

コンテスト 今年も全国の大学生対象の英語弁論大会を開催します

「第4回 津田塾大学梅子杯争奪 学生英語弁論大会」開催

津田塾大学英語会は、今年創設106周年を迎え、第4回梅子杯争奪学生英語弁論大会を開催させていただくことになりました。この大会では全国の大学から参加者を募り、予選審査を勝ち抜いた9名のスピーカーと津田塾大学の代表1名、計10名が思いを込めたスピーチを発表します。大会詳細は右記のとおりです。



●開催日時 2006年12月16日(土) 12:00より開始
●場 所 津田塾大学特別教室
●審 査 員 東後 勝明氏(早稲田大学教授)
会田 千恵子氏(1998年度最優秀スピーカー)
キャロライン・モリス氏(ブリティッシュ・スクール教師)
パトリック・ケアリー氏(本学非常勤講師)
●出 場 者 全国の大学から予選を通過した9名と津田塾大学代表1名、計10名

荒削りであっても目標を持ち、芯に光るものを持ったスピーカーに発表の場を提供すること、梅子杯立上げの時より私たちが掲げている理念です。現在、情報化社会の中で、私たちは多くの情報を受け取ることができますが、大学生の生の声を聞く機会はいまなかなか得られないのではないでしょうか。スピーカーは、7分間という限られた時間の中で、どうしても聴衆の心に届くスピーチができるのか、試行錯誤を繰り返して一つのスピーチを作り上げ、社会にメッセージを発信します。ぜひ、この機会に大学生の生の声を聞きたい、お気軽に足をお運びください。スピーカーの真剣な思いからきっと得られるものもあると思います。

Tsuda Today

no.61

index

P1 田近教授に聞く

P2 理事長交代/博士学位授与/受賞
最終講義/交換留学生紹介/お知らせ
活動報告

P3 津田梅子記念会&ホームカミングデー報告
第7回高校生エッセー・コンテスト結果発表

P6 BILLBOARD

特色GPフォーラム/講演会・シンポジウム開催報告
理事会・評議員会報告/在学生父母会報告
寄付/新刊紹介
P8 公開講座/2007年度一般入試日程
コンテスト

発行日 2006年11月30日
発 行 津田塾大学
編 集 企画広報課
〒187-8577
東京都小平市津田町2-1-1
Tel.042-342-5113
Fax.042-342-5121
http://www.tsuda.ac.jp

田近教授に聞く

「小学校英語をこう考える」

津田塾大学は、平成17年度文部科学省小学校英語活動地域サポート事業に採択され、小平市教育委員会、渋谷区教育委員会と連携しながら、その活動を進めています。その中心として事業を進めている英文学科教授・田近先生に、小学校英語への考えや、その可能性を聞いてみました。



この記事は、10月に行われた田近先生のインタビューを抜粋・要約したものです。詳細は、大学ホームページで公開中です。

—そもそも小学生に英語を教える意義とは？—

音声的にも文字的にも「英語を使える素地を作る」ということです。たとえば英語のリズムやイントネーション、語彙を、無意識に吸収できる段階で触れさせ始めるということです。

それと同時に、英語は「ことば」であり、「ことば」は「人とコミュニケーションをとるためのもの」という『言葉の本質』を理解させることも大切な目的の一つです。そのためには小学校から始めておくべきと考えます。中学の段階で英語をゼロから始めるとなると、中学生の思考レベルに対して退屈な単語や文章から始めなければなりません。その結果、自身の言語力と自分の心理的な能力・認知力にギャップが生じ、言葉としての学習が難しくなります。また、中学生になると自意識が強くなり、コミュニケーションを強く意識するロールプレイング的な教授法が機能しにくくなります。

—小学校英語導入反対にどう思う？—

反対意見で最も多いのは、まずは日本語能力を高めるのが先決という意見です。しかし、これは国語教育の問題と言えるでしょ

う。母語能力はとても重要です。これを機に、日本語教育・外国語教育というのではなく、言語力や子どもの持つ言語表現力・思考力というものをトータルにとらえて母語教育をどうする、外国語教育をどうするというのを併せて議論するようになることを期待します。

—小学校英語の今後の課題とは？—

言語教育の改革を期待する一方で、きちんとした英語教師を育てていかなければなりません。小学校英語は、私たちが中学で学んだ英語とは全く別物です。中学校での英語教育は文法シラバスで、抽象力の高い人向けのアプローチ方法なのです。これを小学校にそのまま導入しても失敗するでしょう。今回の渋谷区と小平市の取り組みを通して、「テーマ中心/コンテンツ中心」という手法に落ち着きました。具体性をもたせたテーマやシチュエーションの中に、文法構造を少しずつ入れていく手法です。例えば、「ロボットを作ってみよう」というテーマだとします。このテーマであれば、体の部位を覚えることができます。次に「そのロボットには何ができるの?」と話題を続ければ、canを覚える。子どもは自分に有意義なことには自発的に関心を持ちます。まずはそこから始めます。語彙もテーマに沿って増やしていかなければなりません。

小学校英語の場合、外国語そのものの習得はもちろん大切ですが、外国語を学ぶことがプラスであるという認識を育てることも同様に大切です。ですからアルファベットを順番に教えるような押しつけ形の指導は小学生には向きません。プッシュしすぎて失敗感を与えてはいけません。嫌いになってしまったら、小学校英語の目的の大部分は失われてしまいます。やはり教育者の質が求められます。英語の本質的な特徴を理解している「津田塾の学生」は、いい先生になると思いますよ。

文部科学省小学校英語活動地域サポート事業

現行の教育課程の下で実施される、小学校における英語活動について、各学校や自治体の課題やニーズに対応して、指導方法の改善・向上や指導者の能力向上を図るための取り組みを支援する事業。

採択された小学校英語活動 地域サポート事業の取組概要

1年目の取組み

(1) 担任のためのワークショップの開催、(2) ALTのためのワークショップ及び講習会の開催、(3) 適宜、教材・教具開発及び教案の検討会等を希望する学校に向き実施

2年目の取組み

(1) 新たな教材開発の実施、(2) 開発した教材を使い研修会を実施、(3) 実際に授業で新教材を使用し、年間指導計画を改善、(4) 2年間の研究成果の発表・振り返り会の実施

3年目の取組み

ALT導入による英語活動の成果を最大限引き出すため、教員研修と教授法・教材・教具の改善・整備を行う。また、英語教育理論を踏まえたうえでの、有用性のある実践的英語活動を目指す。

理事会報告

理事長交代について

2006年7月7日の学校法人津田塾大学理事会で、石坂一義氏の理事長退任と服部禮次郎氏の理事長就任が承認されました。服部氏の略歴は以下のとおりです。

(平成18年7月7日現在)



学校法人津田塾大学理事長
服部 禮次郎

職 歴

昭和17年 9月 株式会社服部時計店(現セイコー株式会社)入社
昭和58年 6月 株式会社服部セイコー(現セイコー株式会社)取締役社長就任
昭和62年 9月 株式会社服部セイコー(現セイコー株式会社)取締役会長就任
平成 6年 7月 第一生命保険相互会社監査役就任(現在に至る)
平成 7年 6月 株式会社和光取締役会長就任(現在に至る)
平成13年 4月 セイコーエプソン株式会社名誉会長就任(現在に至る)
平成13年 6月 セイコー株式会社名誉会長就任(現在に至る)

平成 5年 6月 学校法人津田塾大学理事就任
平成 7年 7月 同 理事重任
平成11年 7月 同 理事重任
平成15年 7月 同 理事重任

賞 罰

昭和58年 藍綬褒章受章
平成 5年 勲二等旭日重光章受章

博士学位授与

今年度の博士学位授与について

氏名:船田クラースンさやか

2002年9月 津田塾大学大学院国際関係学研究所
後期博士課程単位取得後満期退学

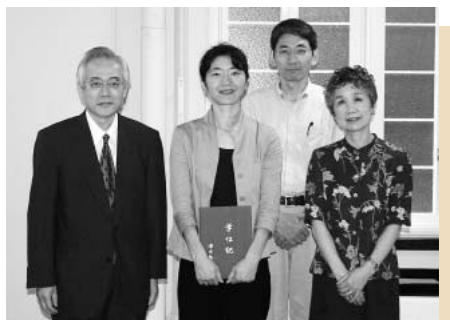
学位:博士(国際関係学)

現職:東京外国語大学 外国語学部講師

学位番号:博士乙第12号

学位授与日:2006年6月14日

学位論文題目:現代モザンビーク政治における「統一」と「分裂」の起源
——解放闘争期におけるニアサ州マウア郡を中心に——



2006年7月24日学位授与式にて(船田さんは左より2人目)

受賞おめでとうございます

英文学科4年 河村 早希子

日本中国語検定協会創立25周年記念スピーチコンテスト
弁論の部 日本中国語検定協会理事長賞受賞

英文学科4年 岡 奈央子

第1回学生通訳コンテスト(東京外国語大学通訳研究会主催)
4位入賞

最終講義のお知らせ

■ 国際関係学科

三浦 永光 先生

日時:2007年1月24日(水) 14:50~15:50

場所:5号館(AVセンター)5101教室

金城 清子 先生

日時:2007年1月24日(水) 16:00~17:00

場所:5号館(AVセンター)5101教室

お問い合わせ:国際関係学科事務室(042-342-5155)

交換留学生紹介

4月から津田塾で学ぶ4名の留学生に加えて、後期から新たに5名の留学生が加わりました。(期間:2006年9月~2007年8月)

Amanda Noel

ランドルフ・メイコン女子大学
(アメリカ)
国際関係学科

Gillian Kindler

ランドルフ・メイコン女子大学
(アメリカ)
国際関係学科

Kenya Evans

スベルマン大学(アメリカ)
国際関係学科

Sarah Kim

エディンバラ大学(英国)
英文学科

Erika Sumilang

フィリピン大学(フィリピン)
英文学科

4月からの留学生については、Tsuda
Today59号でご紹介しています。

メディア・サービス室からのお知らせ

10月より図書館書庫と自動貸出機の利用時間を延長しました。

書 庫 利 用 時 間: 9:00~20:00

自動貸出機利用時間: 9:00~20:30

活動報告

ハートフォードでの教員向け研修に参加して



白戸 朝子

文学研究科修士課程2年

アメリカはコネティカット州ハートフォードで7月21日から25日の5日間の日程で行われた、教員向け研修に参加しました。作家マーク・トウェインが暮らした家に隣接するマーク・トウェイン・ハウスで開かれたこの研修は、本来トウェインの作品を授業で扱おうとするアメリカの教員向けのプログラムですが、今回ハートフォード生命保険会社からの奨学金によって、日本から私たち6人の津田の学生が参加することができました。私は修士論文でトウェインをテーマに取り上げていることもあり、この研修に参加できたことは、とても有意義な体験でした。

5日間の研修では、トウェイン・ハウスの学芸員や、トウェイン研究者として著名な大学教授たちの講義を受ける一方で、トウェインの暮らした家の内部や、貴重な資料を見ることができ、学ぶことが大変多かったです。文学に限らず、さまざまな教科の教師たちが参加しており、改めてトウェインという作家の人気を感じました。研修では、各自それぞれの生徒を対象とした授業案を作成したのですが、学生である私たちにとってはなかなか難しいものでした。しかし、人種差別という観点から問題視されることの多いトウェインの作品が、アメリカではどのように教室で扱われているのか、扱うとすればどのような点に注意すべきなのかということ、また、教室内での人種問題や、文学教育のあり方など、様々なことを垣間見ることができたように思います。

帰国後は、3人ずつ2グループにわかれ、日本の学生向けの

授業案を作成しました。この授業案は、マーク・トウェイン・ハウスのウェブサイトの日本語ページに掲載されており、実際の授業で使うためにダウンロードすることができません。どちらも高校の「総合的な学習の時間」向けの案ですが、それぞれに特色や工夫があり、実際の授業で用いられるとしたら、これほどうれしいことはありません。

この研修に参加した学生は、年齢も、専攻分野も様々でしたが、研修期間や教案作成を通して仲良くなり、6人全員がよい仲間となれたように思います。また、ハートフォード生命保険会社には、奨学金だけでなく、旅程など全て手配していただき、ハートフォードではとても快適に過ごすことができました。また、研修で多くを学ぶ一方で、野球観戦などにも連れて行っていただいて、楽しい思いをたくさんしました。改めて、このような得がたい機会を与えてくださった方々や、貴重な経験を一緒に楽しんだ他の5人の仲間たちに感謝したいと思います。

本文中で紹介されているウェブサイトのURL: <http://www.marktwainhouse.org/japanese/>



トウェイン・ハウス前でマーク・トウェインのそっくりさんと

活動報告

国際ボランティアプロジェクトに参加して



浅田 香織

英文学科3年

私は今年と去年の夏、国際教育交換協議会が行う国際ボランティアプロジェクトに参加しました。初めの年はアイスランドで遊歩道作り、翌年はドイツで墓地のペンキ塗りを世界各国から十数名集まった若者と共に行いました。

私は以前より、「大学時代に何か自分にとって挑戦となることをやりたい」という気持ちがあり、一人で渡航の手続きを全て行い、初めて出会う言葉も人種

も異なる人々と生活を共にするという国際ボランティアはまさに自分にとって大きな挑戦となるものだと思います。参加を決意しました。

アイスランドでは、到着した瞬間見たこともない幻想的な景色に感動する一方で、すぐに今後の不安に襲われました。しかしメンバーと会うとそうした不安は次第に消え去り、初日からお互いの国の話などで盛り上がり深夜まで語り明かしました。特にほとんどの人がヨーロッパから来ており、日本人と接するのは初めてだったので日本に対する興味が非常に高く、なかには俳句についての質問もあり驚きでした。また遊歩道作りは体力

的にかなりきつく、重労働を共にすることでより一層の友情を深めることができました。また仕事以外でも食事は当番制で、夜は体育館に寝袋を並べ寝食を共にしていたので、それらも互いの仲を深める上で助けになっていたと思います。たった3週間の間でしたが彼らとは今でも交友が続いており、この夏、メンバーの数人と再会する機会にも恵まれました。

しかしもちろん試練もありました。アイスランドではシャワーが水のため震えながら毎日お風呂に入ったり、ドイツへ行く際はイギリスで起こった航空機テロ計画の影響から乗り継ぎの便を逃し、混乱する空港で他便の手配をしなければならなかったり、荷物を4日間紛失されるというアクシデントにも見舞われましたが、これらの経験によって少々事ではくじけない自信を得ることができました。そして旅先で出会ったイギリス人の言葉、"The world is my oyster." 心の殻を開けば、多くの出会いと可能性を味わうことができると実感しました。ボランティアを終えた今、この経験が日々の生活につながっているのを確信しています。



アイスランドで流水を目の前にして



遊歩道の完成をメンバーと共に喜ぶ

津田梅子記念会&ホームカミングデー報告

今年も多くの同窓生が参加し、交流を深めました

同窓会副会長・国際関係学科助教授 大島 美穂

10月1日(日)に「津田梅子記念会&ホームカミングデー」が、小平キャンパスで開かれました。

午前の津田梅子記念礼拝では、東京女子大学学長湊晶子先生が「津田梅子と支援者新渡戸稲造・メリー女子人格教育の先覚者として」という題目でお話くださいました。その後続いて、第7回高校生エッセー・コンテスト「チャールズ・チャップリンへ手紙を書こう」の最優秀賞表彰式が行なわれました。審査委員長椿先生の講評の後、最優秀賞に選ばれた内田美希さんの表彰と作品の朗読が行なわれ、感銘を受けた会場から大きな拍手が起こりました。

午後は、天満美智子先生(津田スクールオヴビジネス校長・本学元学長)による「小学校英語が日本の言語教育を変える」と題する講演が行なわれました。小学校における英語教育の意



天満先生による講演会
「小学校英語が日本の言語教育を変える」

味、その必要が多角的に論じられ、津田塾会の主催した渋谷区の小学校英語教育プロジェクトの紹介もビデオを使ってなされました。その後会場との間でディスカッションがもたれ、午前の部でお話くださった湊先生から

天満先生に英語を教わった高校時代のお話も披露されて、和やかな講演会となりました。「暗いことの多い社会で、砂漠の中のオアシスを見つけたようなひとときだった」「明るく楽しい天満先生の講義を伺い、学生時代に戻ったような気持ちになった」「礼拝で心が洗われるようだった」という声も聞かれました。

空いた時間には生協で大学グッズを求める方、手作りケーキ・食事で評判の喫茶スリジェで憩いの時を過ごすグループなど、最近の大学の様子を皆さん楽しんでいらっしゃいました。

プログラムと並行して、津田梅子資料室では、企画展「メディアと高等教育」が、津田梅子記念交流館では小町谷新子氏(英文学科卒)による芋版画展が開催されました。また毎年恒例の、卒業二十周年、三十周年、四十周年同期会が催されました。

なお、同日オープン・リサーチ・センターでは富山県庁国際・日本海政策課澤木有紀氏(国際関係学科卒)、(独)国際協力機構(JICA)国内事業部市民協力室宮川朋子氏(国際関係学科卒)、(財)国際開発高等教育機構(FASID)鈴木純子氏(英文学科卒)によるラウンドテーブルが催され、こちらも在学生と同窓生の間で真摯な議論がもたれました。



卒業40周年同期会記念撮影

第7回高校生エッセー・コンテスト結果発表

スクリーンの中から自由と希望、そして愛を語った
チャールズ・チャップリンへ
手紙を書こう

10月1日(日)、津田梅子記念会において選考結果の発表と最優秀賞受賞者の表彰式が行われました。学長からの表彰に続いて、最優秀賞受賞者の内田さんが受賞作品を朗読しました。



作品を朗読する内田さん
表彰の様子

第7回
高校生エッセー・コンテスト
選考結果

応募総数：240編
女性 202名 男性 38名
日本語作品 112編 英語作品128編

●受賞者紹介(敬称略)

最優秀賞 1名(賞状及び賞金5万円・表彰)

内田 美希 不動岡高等学校3年(埼玉県)[日本語]

優秀賞 5名(賞状及び賞金1万円) ※アルファベットの順

濱田 梨紗子 広島女学院高等学校2年(広島県)[英語]
榊井 恵理 広島女学院高等学校2年(広島県)[英語]
水野 雅代 同志社高等学校2年(京都府)[英語]
鈴木 菜々子 山梨梨和高等学校3年(山梨県)[日本語]
吉澤 真登 名東高等学校3年(愛知県)[日本語]

特別賞 4名(賞状及び図書カード3千円) ※アルファベットの順

唐澤 恵莉 桐朋女子高等学校2年(東京都)[英語]
宮原 浩子 昭和第一学園高等学校3年(東京都)[日本語]
中島 麻佑子 鷗友学園女子高等学校2年(東京都)[英語]
杉山 沙織 捜真女学校高等学部2年(神奈川県)[英語]

※最優秀賞・優秀賞の作品は、本学ホームページ(<http://www.tsuda.ac.jp>)に掲載しています。

講 評

映画『独裁者』のメッセージに応えてくれた240人の高校生たち

第7回 高校生エッセー・コンテスト

審査委員長 椿 清文

津田塾大学第7回高校生エッセー・コンテストには過去最高の240人という多くの高校生が作品を寄せてくれました。すばらしい作品を書いてくれた高校生と、教室でエッセー・コンテストへの応募を呼びかけてくださった先生方に深く感謝いたします。

今回のエッセー・コンテストの特徴の一つとして、ほとんどの応募者が、1977年に亡くなったチャップリンのことをあまり知らなかったことがあげられます。今回の応募がきっかけとなって、高校生たちの多くは、この20世紀を代表する喜劇王の飛び切りのおもしろさを知ることになりました。同時に、高校生たちは映画『独裁者』にこめられたメッセージもしっかりと受け止めてくれました。『独裁者』の終わり近く、ユダヤ人の床屋が行う演説に、チャップリンが訴えたかったメッセージが表現されていますが、それはどういうことだったのでしょうか。ここでチャップリンはファシズムやその軍隊を批判していますが、チャップリンにとって、軍隊や戦争は、いわば、現代文明の破壊的な力の象徴でもありました。今や人類は富や力を求めて機械や物質が溢れる世界を生み出しましたが、その過程で、人々は自らを破壊し、自分自身が機械になり、豊かな人間性を失ってしまった。チャップリンがあのような演説で言いたかったのはこんなことだったと思います。『独裁者』や『モダン・タイムス』などのチャップリンの作品には、物質文明のチャンピオンであるアメリカに対する深い

批判の精神が感じられます。そのために一部の人たちの反感を買ったチャップリンは、やがてアメリカを去ることになりますが、今回の応募者の中には、チャップリンの豊かな批判精神を理解し、それを受け継ごうとする人たちが数多くいました。その人たちは、今の世界を見渡して、この世にまだ「独裁者」が何人もいること、そしてチャップリンが警告した事態が決して改善されていないことを指摘しています。しかし若者らしい正義感と情熱を持つ高校生たちは、そのような現実に対して絶望することなく、映画のユダヤ人の床屋のように、明るい未来を目指して努力する決意を語ってくれました。

今回最優秀賞に選ばれた内田さんの作品は、障害を持つお姉さんのことを書いています。そして障害を持つ人も実は豊かな人間性を持っていること、また障害を持つ人に対して、機械のようにではなく、正當に人間として接する社会がやがて訪れることへの希望を、お姉さんへの愛情溢れる文章で表現していて、感動的でした。

今年はいくつかの高校が、夏休みの宿題にこのエッセー・コンテストへの応募を課してくださいました。これを見て私たちは、この高校生エッセー・コンテストもだんだん社会に認知され、浸透しつつある感を深くしています。それと同時に、今回はやや類似した内容の作品が多かった印象もありました。今後はさらに個性溢れるエッセーが数多く書かれ、ますます充実したエッセー・コンテストに成長していくことを期待しています。

最優秀賞作品紹介

内田 美希 不動岡高等学校3年(埼玉県)

心の友チャップリンへ

あなたの言葉、「すべての人の助けになりたいのです。その人がユダヤ人であっても、異教徒、黒人、白人であっても」… 世界中の人々がそうだったらどんなにいいことでしょう。

私には姉がいます。22歳です。もちろん、兵士ではありません。あなたは私がなぜこのようなことを言うのかを不思議に思うかもしれません。なぜなら、私の姉は知的障害者だからです。私の住む日本は、医療も福祉施設も充実していると思います。しかし、私は姉をとりまく社会にどこか隔たりを感じてしまいます。障害を持っているわけですから、普通の人より仕事ができないとか、生活が出来ないのは当たり前です。それに関わらず、私たち五体満足の間は彼らを機械のように扱っている気がします。機械…人間ではないのです。普通の人々が働くのと同じ時間彼らが働いても、彼らの賃金はほんのわずかなものです。同じ人間なのに普通の人間は、彼らに仕事を与えてやっている、雇ってやっているという思いを抱いているのかもしれない。

私たち人間は、世の中の生活を豊かにするためにたくさんの素晴らしい機械を発明してきました。あなたの言う航空機、ラジオなどもそうですね。しかし、これらを作りすぎるによって私たちは不親切になりました。情も薄くなりました。人間性もなくなりました。親切と思ひやりの心も奪われました。そんな世の中では、いつかは全てが失われてしまうはず。私は、その失われかけているものを持っているのは、我々が機械のように扱っている障害とともに生きている彼らだと思います。彼らは、とても汚れた社会の色に染まっていない純粋な心を持っています。彼らは心からの美しい笑顔を持っています。現代の我々は、それさえも失っています。

なぜ人間には偉い人とそうでない人がいるのでしょうか。なぜ人間は日々争い続けるのでしょうか。平等と言われるこの世の中、本当に平等なのでしょうか。あなたの言葉に「人は誰でも助け合いたいと望んでいるものです。人間とはそういうものです。私たちは、お互いの不幸ではなく、お互いの幸福を念願として生きていたいと思っているのです。憎み合ったり、蔑み合ったりしたくはありません」というものがありました。私は人というものがどういふものなのかさえも忘れていた気がします。

あなたは障害者の方をどう思いますか？おそらく、多くの人間は障害者という人間を人の助けなしには何もできないものだと考えていると思います。私もはじめはそうでした。しかし大人になっていく姉を見るにつれて、尊敬の意が生じてくるようになりました。なぜなら姉は夢を持っているからです。姉は将来歌手になることを望んでいます。私は夢を諦めず、強く生きる姉を私の家族のヒーローだと思っています。

…ハンナ。僕の声が聞こえるかい。今君がどこにいるのだとしても、さあ、顔を上げて、ハンナ！ごらん！雲が晴れていくよ！太陽の光が差し始めてきたよ。僕らは暗闇の世界から、光りの世界に入ろうとしているのだ。僕らは新しい世界に足を踏み入れようとしている。憎悪と貪欲と暴力を克服した、もっと思ひやりのある世界に…

私は、あなたの愛するハンナへの言葉を読むと姉の歌う歌を思い出します。あなたの言葉はハンナをはじめとする世界中の人々の心に響いていることでしょう。姉の歌はあなたのように、世界中の心に響くわけではありませんが、私をはじめ、私の家族の心には宝石のように清らかに響いています。

あなたの望む世界になるよう、勇気をだして、一緒に歩んでいきましょう。

あなたの心に届きますように…
内田 美希より

「発展し続ける英語教育プログラム」 特色GPフォーラムを今年も開催します

2006年度特色GPフォーラム『英語で書くーライティング教育の可能性』

日 時：2006年12月16日（土） 13:00～15:30

場 所：5号館（AVセンター）

参加費：無料（申込不要）

英語で文章を書くことは大変だと感じていませんか？あなたはどんな英語作文の授業を受けていますか？また、どんな授業を受けてきましたか？あるいは先生方は、教室でどんな授業を展開していらっしゃいますか？世界のグローバル化に伴って英語会話の能力が大幅にアップしている状況はありますが、一方、インターネットの普及などによって英語で書くことの大切さもいよいよ増えています。

今回のフォーラムでは、「英語で書く」ことの重要性や楽しく書くことを求めて、ライティング教育に携わっていらっしゃる先生方から教育現場の状況、学生の声を伺いながら、これからのライティング教育の可能性をフロアーの皆さまと探っていききたいと思います。

さまざまな立場から書くことの楽しさを再発見してみませんか。

講師：Ulla Connor 氏（インディアナ大学教授）

植野 伸子 氏（筑波大学附属中学校教諭）

Mary E. Althaus（津田塾大学教授）

英語教育に携わる方はもちろん、教育関係の方、英語に関心のある方、学生、高校生、どなた様でもご参加いただけます。皆さまのご参加をお待ちしております。



2004年度GPフォーラム
「グローバル化していく英語
ー昨日、今日、明日ー」

多方面で活躍している卒業生をパネリストに迎え、これからの英語教育のあり方などについて語っていただきました。

2005年度GPフォーラム
「表現教育のいま」

演劇および教育の分野で活躍中の3氏に表現教育について語っていただきました。また、表現教育を具現化した英語劇の発表も行いました。



Listening, Speaking, Reading, Writingのバランスを重視した「内容重視」の英語教育に対して多角的なアプローチを行うのが津田塾の特色GP。フォーラムのほか、「ドキュメンタリー・ワークショップ」（2005年、2006年）、「多文化理解と言語教育のためのドラマ・ワークショップ」（2006年）など、講演会やワークショップを多数開催してその成果を社会に還元しています。特色GP関連の詳細は大学ホームページをご参照ください。

今秋もさまざまな講演会・シンポジウム等が開催されました

9月2日（土）3女子大学合同シンポジウム

「次世代に贈るシンポジウム

あのプロジェクトを実現させた女性たちー3女子大学出身の若手プロフェッショナルが語る」

津田塾大学、日本女子大学、東京女子大学の合同企画として、9月2日（土）千駄ヶ谷の津田ホールで開催しました。共学志向化が指摘される中、改めて女子大の存在意義を問い直す試みで、各大学の卒業生達に仕事と大学を大いに語っていただきました。

3女子大学出身の若手プロフェッショナルとして、小野さくら氏（津田塾／（株）NHKエデュケーションal勤務）、鎌田由美子氏（日本女子／（株）JR東日本ステーションリテイリング代表取締役社長）、谷津倉智子氏（東京女子／Funnybee（株）代表取締役）をパネリストとしてお迎えし、須磨佳津江氏（東京女子／フリーキャスター（元NHKアナウンサー））による進行で、各氏からそれぞれの出身大学に進学した理由、大学での「体験」「学び」が現在の「仕事」にどのように活かされてきたか、プロジェクト実現までの道のり、次世代の女性たちへのメッセージなどを語っていただきました。



参加された方々からは、「これからの進路選択や現在の仕事に対する心構えなどに大変参考になった」、「強い意志を持った女性たちの生き方に感動した」等の感想が寄せられ、大変意義のあるシンポジウムとなりました。津田塾の活動をよく知ってもらうためにも、ぜひ今後もこのような機会を設けていきたいと思いますので、皆さま奮ってご参加ください。

今秋開催した主な講演会・シンポジウム

10月	ウェルネス・センター 「武術の身体運用法と日常動作の接点」（甲野善紀氏）
	数学・計算機科学研究所 「第17回数学史シンポジウム」
	英文学科（翻訳コース） 「産婆になりましたー 創作と翻訳の境界線をめぐって」（Arthur Binard氏）
	メディアスタディーズ・コース 「映画『日本国憲法』と、ドキュメンタリーの役割」（John Junkerman氏）
	ウェルネス・センター 「人間と自然の共存を考えるー『自然の権利』訴訟をとおしてー」（籠橋隆明氏）
11月	言語文化研究所 「戦う女性ージャンヌ・ダルクの史実と表象」（若桑みどり氏）
	メディアスタディーズ・コース 「映像の魅力と怖さ」（高畑勲氏）
	ウェルネス・センター 「ユビキタスネットワーク社会の健康福祉情報サービス」（小館亮之）

報告

理事会・評議員会開催報告

理事会および評議員会が下記のとおり開催されましたのでご報告いたします。

第165回理事会 日時：2006年7月7日 開催会場：経団連会館

審議事項 1.理事長の交替に関する件
2.その他

第140回評議員会 日時：2006年7月28日 開催会場：経団連会館

報告事項 1.理事長の交替に関する件
審議事項 1.評議員会議長の選任に関する件
2.評議員会選出理事の選任に関する件
3.その他

第166回理事会 日時：2006年9月5日 開催会場：経団連会館

報告事項 1.評議員会選出理事について
審議事項 1.理事会選出評議員に関する件
2.その他

第141回評議員会 日時：2006年10月27日 開催会場：津田ホール会議室

諮問事項 1.2006年度（平成18年度）補正予算（案）に関する件
2.2007年度（平成19年度）学費改正（案）に関する件
3.津田塾大学学部学則の一部改正に関する件
4.津田塾大学大学院学則の一部改正に関する件
報告事項 1.創立110周年記念事業基金について
2.財団法人津田塾会について

第167回理事会 日時：2006年10月27日 開催場所：津田ホール会議室

審議事項 1.2006年度（平成18年度）補正予算（案）に関する件
2.2007年度（平成19年度）学費改正（案）に関する件
3.津田塾大学学部学則の一部改正に関する件
4.津田塾大学大学院学則の一部改正に関する件

懇談事項 1.平成18年度人事院勧告に伴う本学教職員給与の取扱いについて
2.創立110周年記念事業基金について
3.財団法人津田塾会について

報告

在学生 父母会報告

11月11日（土）、『在学生父母のためのオープンキャンパス』を開催しました。飯野学長の挨拶に始まり、「さらに社会に求められる大学」をめざした津田塾の各種取り組みや、国際交流、健康相談、就職支援など、学内外より面倒見の良さと定評のある本学の学生生活サポート制度等について紹介しました。また、津田塾祭が開催されているキャンパス内を在学生ガイドが各自の学生生活を盛り込みながらご案内。「子どもが普段どのような環境で過ごしているかがよく分かり、参加してよかった」「また来年も参加したい」等の感想をいただきました。

寄付

寄付者ご芳名 ご協力に感謝いたします

寄付金

以下のとおりご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。（11月7日現在）

○教育研究施設設備の充実のため

穴沢 素子 殿（国 1987年卒） 1,315円
匿名 551円
吉川 拓美 殿（英 1990年卒） 50,000円
1956年卒業（英大5回・数大4回）有志 殿 350,000円

小脇奈賀子 清野恵美子 櫻井明子
伊藤孝子 萩原迪 國本キクエ
木村久子 多賀谷実枝子 加来奎子
小林依子 大西泰枝 中山國枝

折橋幸 小林洋子 中村英子
吉澤玲子 市川幸子 西沢夫味子
相沢佳子 唯是淳子 滝田淑子
玉木みやを 石井倫子 河原和子
本島節子 安永紀代子 （敬称略）

○花と緑資金として

峰村 桂子 殿（英 1964年卒） 30,000円

○奨学金として

河嶌 哲也 殿 4,000円

○アフガニスタン女性教員研修支援プロジェクト

津田塾大学同窓会 殿 3,000円

寄贈

○アップライトピアノ 佐藤 愛子 殿

新刊の ご紹介

Tsuda
Today

紹介した新刊は
大学生協で販売中
（お問い合わせ 042（343）7073）

日系人とグローバリゼーション 北米、南米、日本

◎平成18年度「国際理解促進賞」優秀賞受賞



（人文書院 6,000円＋税）

訳：移民研究会

本書は、ロサンゼルスにある全米日系人博物館が1998年に立ち上げた「国際日系研究プロジェクト」の活動から生まれた。アメリカ合衆国、カナダ、チリ、メキシコ、ブラジル、アルゼンチン、そして日本から、18人の研究者ーその中には、自身が日系人で日系人コミュニティの活動家やリーダーとしての役割を果たしている者も含まれていたーが、全米日系人博物館の会議室に集まり、共同研究の枠組みや期待する成果について3日にわたり話し合ったのが、最初の会合である。その成果が本書の原著 *New Worlds, New Lives:*

Globalization and People of Japanese Descent in the Americas and from Latin America in Japan (Stanford Univ. Press, 2002)。本書の最大の特徴は、北・南米からアメリカ合衆国への日本人移民とその子孫だけでなく、日本に住む南米からの日系人をも研究の射程においていることであり、いままでにない広がりをもった共同研究の達成である。本学の博士課程終了者が中心となって、ほぼ2年をかけて日本語への翻訳および編集作業をし、出版を実現した。（解説：飯野正子（本学学長））

先生はプロチアリーダー！ 子持ち★バツイチ★44歳



（マキノ出版 1,300円＋税）

著者：黒田 紫（英文学科卒）

津田塾大学在学中より今日までの26年間、チアリーダーとして現役にこだわる筆者の自叙伝的エッセー。英語教師として公立高校に勤務するかたわらプロチアリーダーとして常に第一線で活躍。しかし華やかな舞台の裏にある私生活は常に病気との闘いだった。バセドウ、メニエル、うつーそして2年前には脳梗塞に倒れた。死の淵から生還するも、待っていたのは半身麻痺の後遺症。再びスタジアムに登場するまでの奇跡の復活劇や母子家庭で子どもを育てながらダンスチームを率いる苦闘を赤裸々に告白。「あきらめない」精神はまさに津田スピリット！本の続きはブログで公開中。（著者解説）
（ブログのURL）<http://blog.livedoor.jp/yukarigo/>

「できる女」はやわらかいーラッキーサクセスの仕事術ー



（垂紀書房 1,400円＋税）

著者：林 恵子（英文学科卒）

「40歳で社長になる！」30歳のときにそう決心して実際に夢が叶った私。もとは津田塾卒業後、300通の履歴書を出すも全敗の落ちこぼれ。アメリカ女性のイキイキとした生き方に触発され、いろいろな試練を乗り越え、7年前社長に就任した会社をV字回復することができました。自分の人生を変えられるのは自分自身。心の持ち方、考え方、やり方次第で道は大きくかわります。仕事の具体的なノウハウは勿論、仕事で頑張って成功したい人、自分らしく生きたい人に「元氣が出る」エールを送る一冊です。さあ、あなたもこの本と一緒に、あなたのなかの「すごい自分」を発見しましょう！（著者解説）